

心理学専攻（修士課程）の3ポリシー

【教育の理念】

人文科学研究科心理学専攻は、現代の多様な社会的要請に応えるような高度な専門的研究を遂行し得る人材の育成と、建学の理念である「仏教」の教えと「禅」の精神に則り、人類の幸福に貢献できるような実践的な専門家の養成を目的とする。心理学コース・臨床心理学コースの2コースを置き、心理学コースは、多様な社会的要請に応えられる心理学研究を遂行しうる人材の育成を、臨床心理学コースは、臨床心理学領の専門知識を備え、広く人間社会の諸問題の解決を図りうる公認心理師・臨床心理士の養成を目的とし、各コースにおいて求められる様々な能力の修得と向上を目指し、きめ細かな指導を行う。

【修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）】

心理学専攻は、教育の理念に基づいて定められた下記の3つの力を身につけ、所定の期間在学し、各コースが定める所定の単位を修め、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、修士論文を提出してその審査および最終試験に合格した学生に対して修了を認定し、学位を授与する。

（DP1）専門分野の知識や技能の活用力

心理学コースにおいては、精神と身体に関する生物科学を基盤とした神経科学、認知科学、行動科学等最新の科学的知識を身につけ、およびそれらの分野における研究遂行能力を修得していること。臨床心理学コースにおいては、サイエンティスト・プラクティショナーモデルを土台とした実証的な根拠に基づく実践的活動に従事しうる資質と実力が備わっていること。また、両コースとも専門的知識を現代社会における諸問題に活用する汎用性を発揮し、心理学分野における先導者として、実際に直面する状況・課題に対して臨機応変に対応するだけでなく、積極的・提案し、社会に還元していくことができること。

（DP2）情報分析、課題設定および問題解決能力

基礎的な知識や先行研究を踏まえ、自ら主体的に課題を設定する力と、さらに高度で専門的な資料、文献、情報を収集・分析して適正に判断・思考しながら、問題解決までの道筋を論理的に展開できる実行力や新たな知見を見出す能力を兼ね備えている。

（DP3）コミュニケーション能力

論文作成やプレゼンテーション、実習等を通じて、自らの考えを論理的かつ明確に伝えると同時に、他者の考えと価値観を尊重しつつ、専門的な知見から論理的に意見を述べるなど、主体的に協働することができる。また、研究倫理を踏まえ、適切な方法やツールを用いて研究活動を進め、世界に向けて自らの考えを発信することができる。特に、臨床心理学コースにおいては、公認心理師、臨床心理士としての専門業務に十分に対応できるための高度なコミュニケーション能力を身につける。

【教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）】

心理学専攻では、「修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」に掲げた3つの能力を養成するために2年間の教育課程を提供する。両コースとも、課程を通じた学習成果としての学位論文・課題研究の審査基準を専攻毎に明確にし、そこから得られた評価結果を基に、コースワーク・リサーチワークの改善を図る。さらに、情報化社会の無限に溢れる情報から論文盗用等が行われないよう、カリキュラムの全ての要素の中で

研究倫理に関する意識の醸成を図る。特に、臨床心理学コースでは、国家資格である公認心理師および、(財)日本臨床心理士資格認定協会の第1種指定大学院としての要件を充足する科目群を中心に教育課程を編成する。教育内容、教育方法、評価については下記に定める内容に従う。

1. 教育内容

- 1) 講義科目は、心理学分野の専門基礎力および学術研究技術の基礎を涵養し、理論的・実践的基盤を築くために開講する。心理学コースでは、精神と身体に関する基礎科学としての、「生理心理学」、「認知心理学」、「行動分析学」、「社会心理学」等の諸講義、精神と身体の融合を具現化する科学としての「禅心理学」の講義を教育課程の中核に配置している。また、臨床心理学コースにおいては、研究者としての実力を涵養するため、心理学コースにおける各授業科目も履修可能とし、さらに、「実験実習」などの心理学における必須科目を学部で履修していない院生に対しては、学部科目も履修できる。
- 2) 演習科目は、専門領域・研究課題に応じて修士論文の作成上必要とされる指導や議論を繰り返すことにより、緻密な研究指導を行う。また、特に臨床心理学コースにおいては、公認心理師・臨床心理士としての実践活動を十分に踏まえた演習を行う。
- 3) 実習科目は、身につけた知識・技術を、調査・実践の場で活用するために開講する。また、特に臨床心理学コースでは、公認心理師・臨床心理士としての実践活動を十分に踏まえた実習を行う。
- 4) 1～3の集大成として提出される修士論文を完成させ、それについて、審査および最終試験を実施する。

2. 教育方法

- 1) 講義科目では、基礎的な研究手法や研究能力を体得し、少人数での個別・グループ形式で授業を行う。
- 2) 演習科目を中心とする、修士論文の作成指導においては、教員と学生の間で「学位授与の方針」および「学位論文審査基準」を共有し、密接なコミュニケーションを取りながら実施する。
- 3) 実習科目においては、調査・実践の計画の立案、事後の検証について、指導を行う。特に臨床心理学コースにおいては、公認心理師・臨床心理士としての実践活動に十分に即応した実習を行う。
- 4) それぞれの授業科目を、組織的に履修することにより、専門性を追求しながらも狭量な思考に偏らないよう、指導教員を中心に指導を行う。
- 5) 修士論文の審査にあっては、主査1名と副査2名以上で構成される審査委員により、「学位論文審査基準」に則り厳格な審査がなされる。最終試験においては、「学位授与の方針」に基づき、学位授与に必要とされる専門的な学識、技能、研究能力を身につけていることを詳細に確認する。
- 6) 研究倫理教育は、研究科・専攻に拠らない一般的な内容についてはeラーニングなどの方法を用いて広く提供し、各専門分野特有の研究倫理については、研究指導を通じて指導することにより補完する。
- 7) 学生調査・アンケート等の結果に基づく客観的な評価指標によって全学的な検証を行い、検証結果を教育内容や教育方法の改善へ積極的に活用し、学生へのフィードバックを行う。

3. 評価

心理学専攻では、修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）、入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）の3つのポリシーに基づき、学生の入学時から修了後までの成長を視野に入れ、教育課程レベル、及び科目レベルで学修成果の評価・測定を

行う。特に臨床心理学コースにおいては、公認心理師・臨床心理士といった実践活動に従事することも踏まえて、総合的評価を行う。

4. 修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と教育課程の編成・実施のマトリクス表

◎:特に重点を置いている ○:重点を置いている

授業科目等	履修単位	配当学年	DP1	DP2	DP3	各科目等のねらい
講義科目	2	1・2	◎	○		心理学分野の知識および情報収集・分析などの研究活動上必要な知識や手段について体系的に身につける。
演習科目	2	1・2	○	◎	◎	個別の研究テーマに基づき、指導教員との密なコミュニケーションを取り、議論や発表を行い、修士論文作成に役立てる。
実習科目	1～2	1・2	○	◎	◎	専門的な技術を基に、実社会において調査・分析等を行う。特に臨床心理学コースにおいては、公認心理師・臨床心理士としての実践力を身につける。
修士論文	—	—	○	◎	◎	2年間の学修の集大成として、自ら設定した研究テーマに関する論文を作成する。
研究倫理教育	—	1	○	○	◎	研究者として求められる基本的な研究倫理を身につけ、意識して研究活動を行う。

【入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）】

心理学専攻は、心理学分野に関する学士課程レベルの基礎的知識や、実務経験などを踏まえ、人間・社会・文化等に対する強い興味関心を持った学生・社会人のうち、大学院入学後も主体的に専門知識を深め、研究活動を行う明確な目的意識と熱意を持った入学者を求める。また、入学希望者に対しては、広い視野と、精深な学識を授け、先導者として個人の様々な能力および高度な専門知識を社会に発信する意欲を持った人材の育成を行う。特に、心理学コースにおいては、心理学における科学的研究の歴史、現代心理学の動向など基本的な心理学の知識、心理学実験、調査などの研究法、統計解析、プログラミング言語など研究を遂行するための知識、さらに諸外国の最新の学術論文を読むための英語力を備えた人材を受け入れる。また、臨床心理学コースにおいては、心理学コースが求める事項に加え、現代社会が抱える人間の諸問題についての客観的な知識と冷静な分析・思考力が求められる。

こうした理解を持った受験生を適正かつ公正に選抜するため、心理学専攻各コースの特性に応じた、多面的・総合的な視点による多様な入学者選抜を行う。

1. 求める学生像

- (AP1) 心理学分野に関わる知識や技能を幅広く修得し、大学院での学修に必要な基礎学力を有している。〔知識、理解、技能〕
- (AP2) 心理学専攻で学んだ専門的知識や技能を社会に還元し、貢献しようとする強い意欲と目的意識を持つ。〔意欲、関心、態度〕
- (AP3) 社会の事象について主体的に課題を設定し、様々な情報に基づき考察を行い、その結果を他者にわかりやすく根拠をもって論理を展開することができる。〔思考力、判断力、表現力〕
- (AP4) 多様な他者の考えや価値観を尊重して協働しつつ、自らの考えを適切なツールを用いて発信する意欲を持つ。〔主体性、多様性、協働性〕

2. 求める学生像と入学者選抜方法のマトリクス表

◎:特に重点を置いている ○:重点を置いている

入学試験制度	選抜方法	AP1	AP2	AP3	AP4	各入学試験制度のねらい
一般入学試験	出願書類	○	◎	○		<p>学士課程レベルの基礎的な専門知識があると認められる者に対し、研究に必要な専門知識や語学力を重視した選抜を行う。筆記試験は記述式で行い、専門科目試験と外国語試験の2科目で実施される。面接試験では、専門知識と研究意欲の確認等を行う。特に、臨床心理学コースにおいては、公認心理師、臨床心理士としての資質や意欲を確認する。</p>
	筆記試験	◎		○	○	
	面接試験	○	◎	○	○	
社会人特別入学試験	出願書類	○	◎	○		<p>主に大学卒業後一定年数経過した者、および大学卒業後に専門分野に係る実務経験が2年以上の者を対象とする。特にこれまでの研究実績または入学後の研究計画を重視し、書類選考と研究上必要となる専門分野の基礎知識の筆記試験および面接試験により行う。</p>
	筆記試験	◎		○	○	
	面接試験	○	◎	○	○	
外国人留学生入学試験	出願書類	○	◎	○		<p>外国籍を有し、大学院教育を受けることを目的とした受験生を対象とする。特に入学後の研究計画を重視し、書類選考を行う。心理学専攻においては専門分野と外国語に関する筆記試験、面接口試により実施する。</p>
	筆記試験	◎		○	○	
	面接口試	○	◎	○	○	